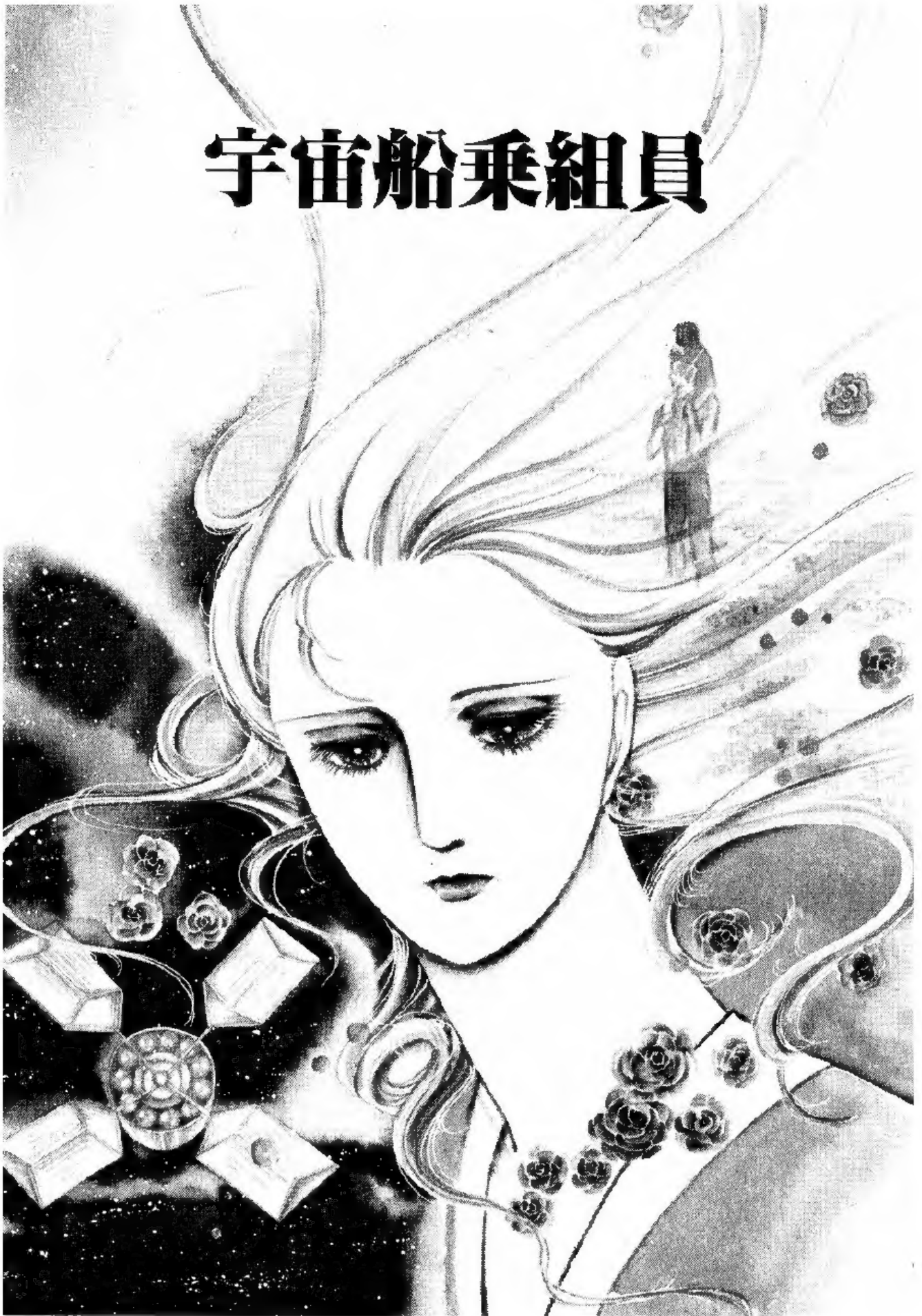


宇宙船乗組員







……うん
おかあさん



もうにどと
出発しないよう
に！

——こんどこそ
おとうさんが
帰ってきたら



ねえ ダグ
なんとか
力をかしてね…



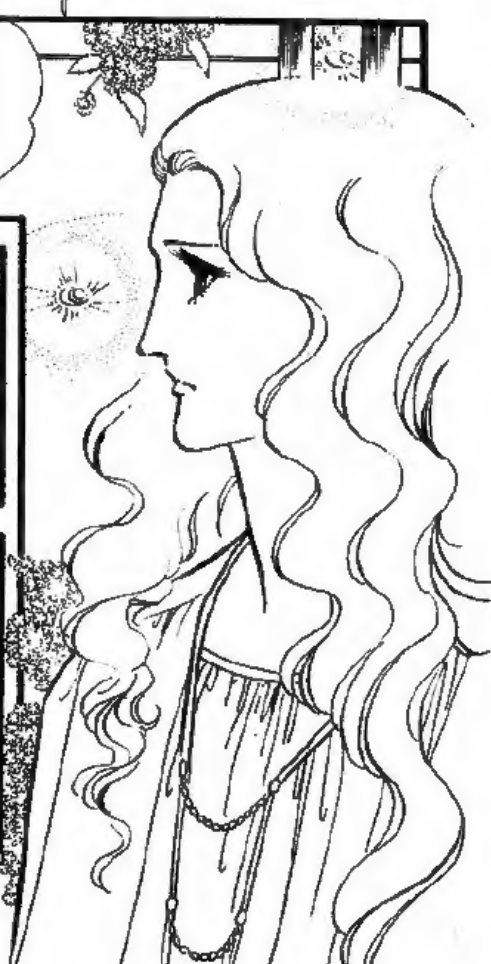
…でも
うまく
いくかな
……
むずか
しいよ

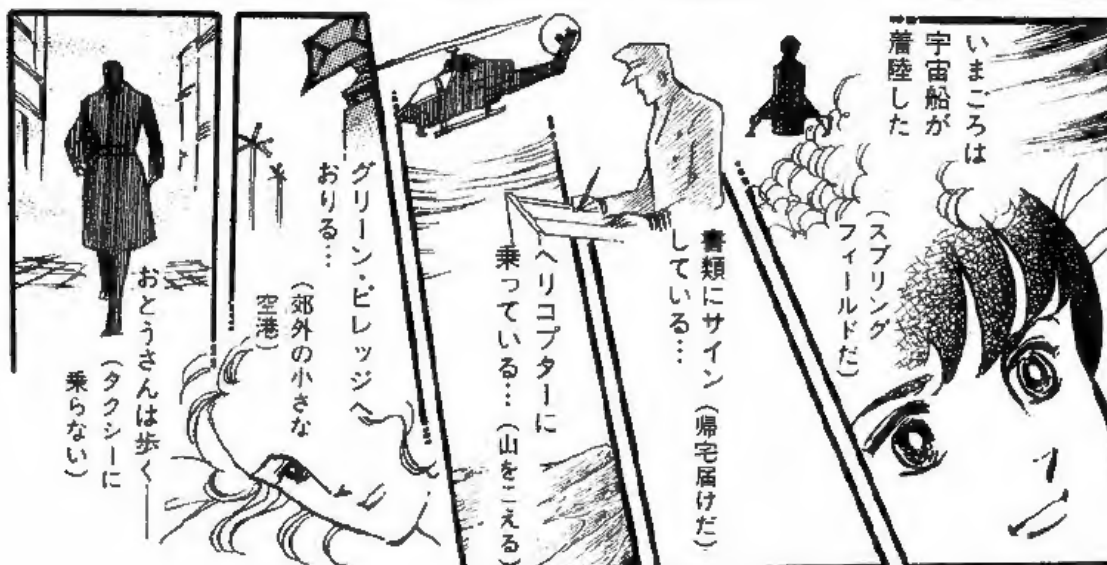
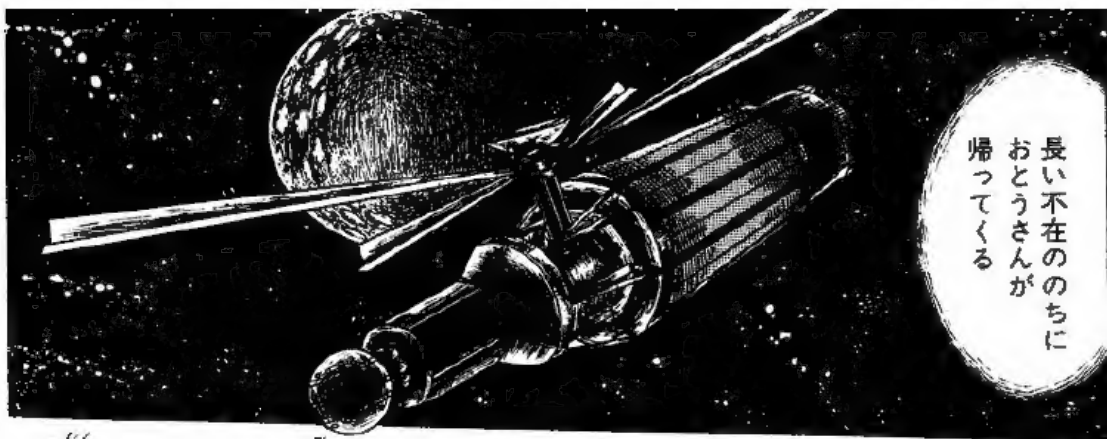


おかあさんも
ねむれない



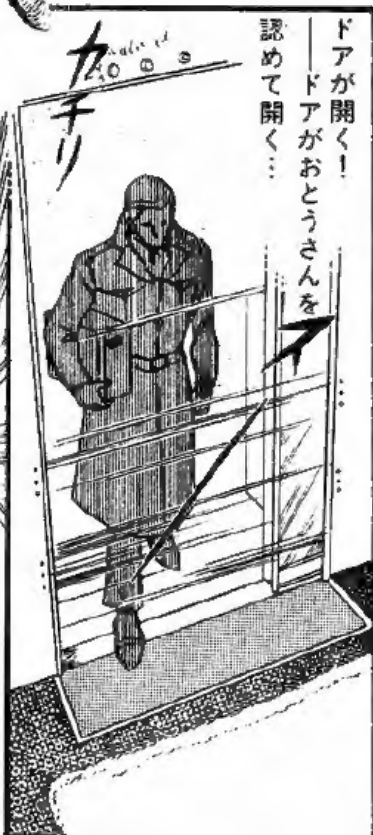
ぼくは今夜は
ねむれない







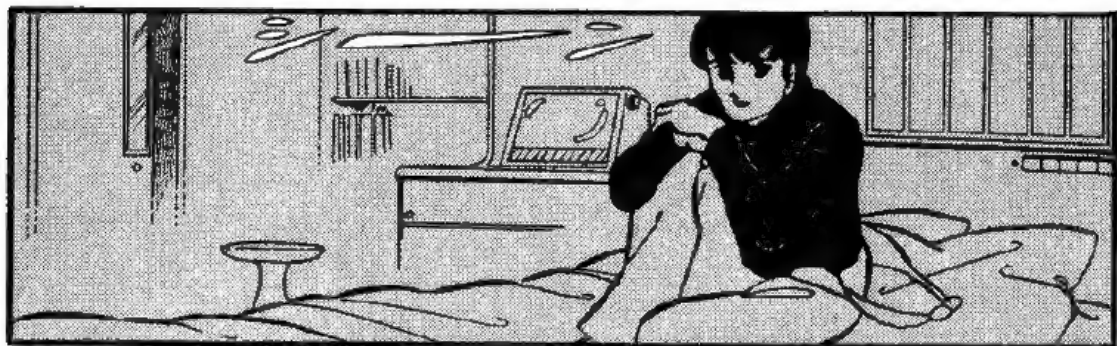
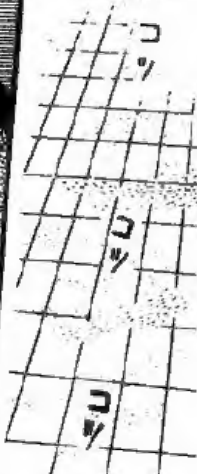
帰ってきた……!



ドアが開く!
ドアが
おとうさんを
認めて開く……



!!



おとうさんの
黒い箱……

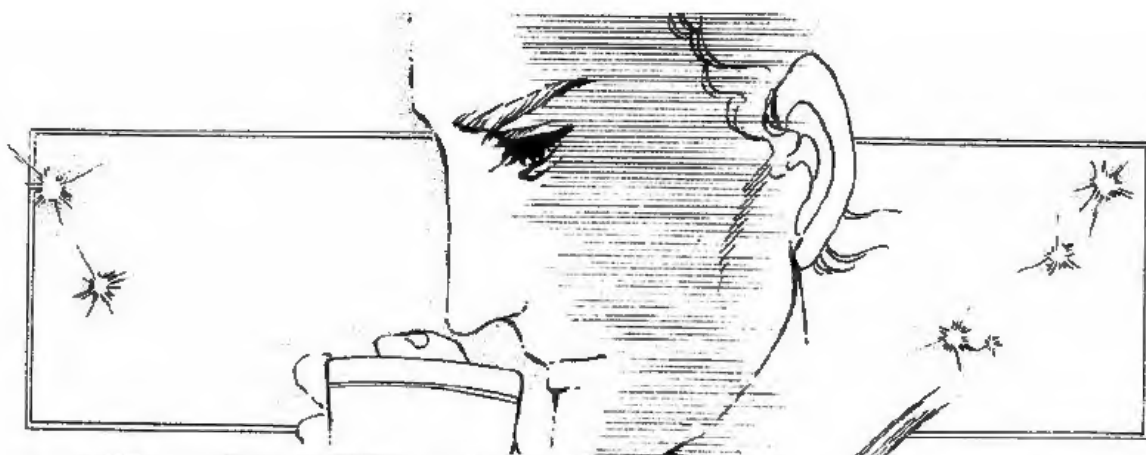
居間だ

あった



帰ってきた
あれは
どこだろう





その日は
おとうさんは
空なんか
見ない
おかあさんは
少女のよう

芝刈り
家具の修理
みんな
とっておくのだ
おとうさんが
帰って
きたときの
ために



でも2日目には
おとうさんは
星を見あげる
3日目には
おかあさんは
泣く
4日目の朝
おとうさんは
出発し：
おかあさんは
おきてこない
おきてきても
なにも食べない
これらの
くりかえしだ：



ぼくは制服の
ほりを取った
けど
おかあさんは
なにかおみやげを
もらったの…かな…？



おとうさんと
いっしょだ

おとうさんと
いっしょに
笑ったり
うなづいたり

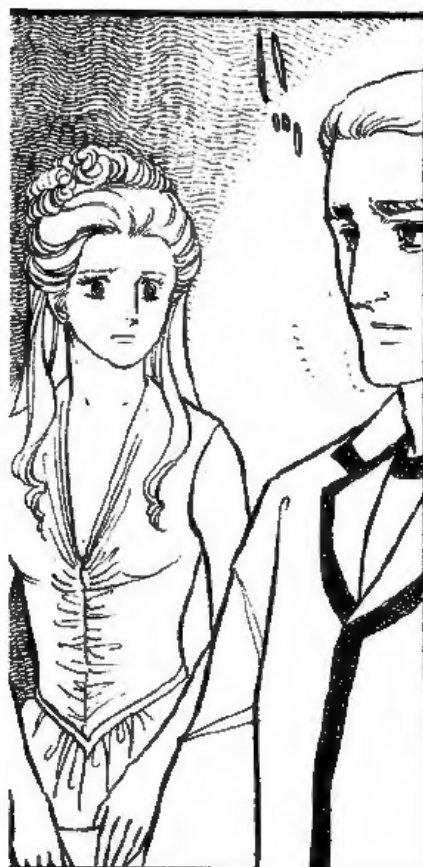
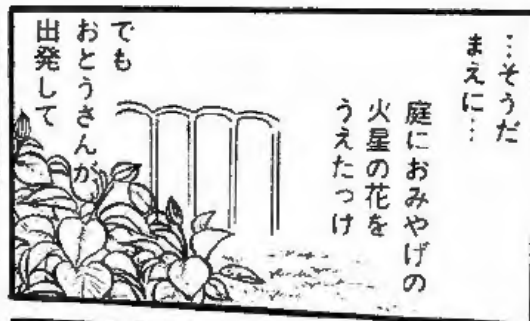


でもきょうはまだ
1日目だ

ねえ！

町へでてテレビの
移動展示会見ようよ！

ようし！



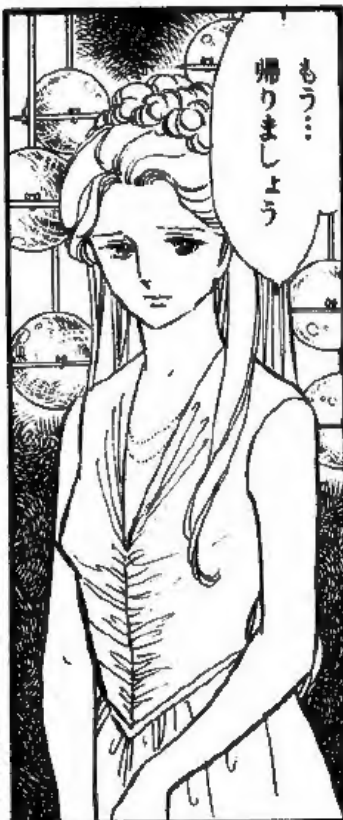


…おかあさんに
せつないおもいを
させた

ごめんなさい



ごめん
なさい



もう…
帰りましょう



いや! たいして…
つまらんよ!
きまりきった
もんだしね
ダゲ



でもおとうさんは
いつもまた
いつてしまうね
習慣さ

習慣さ



うん!

じゃ…あ
これきりだよ



ダゲ…
そいつは

ねえ

ねえ

ねえお願い



制服を着て
みせて

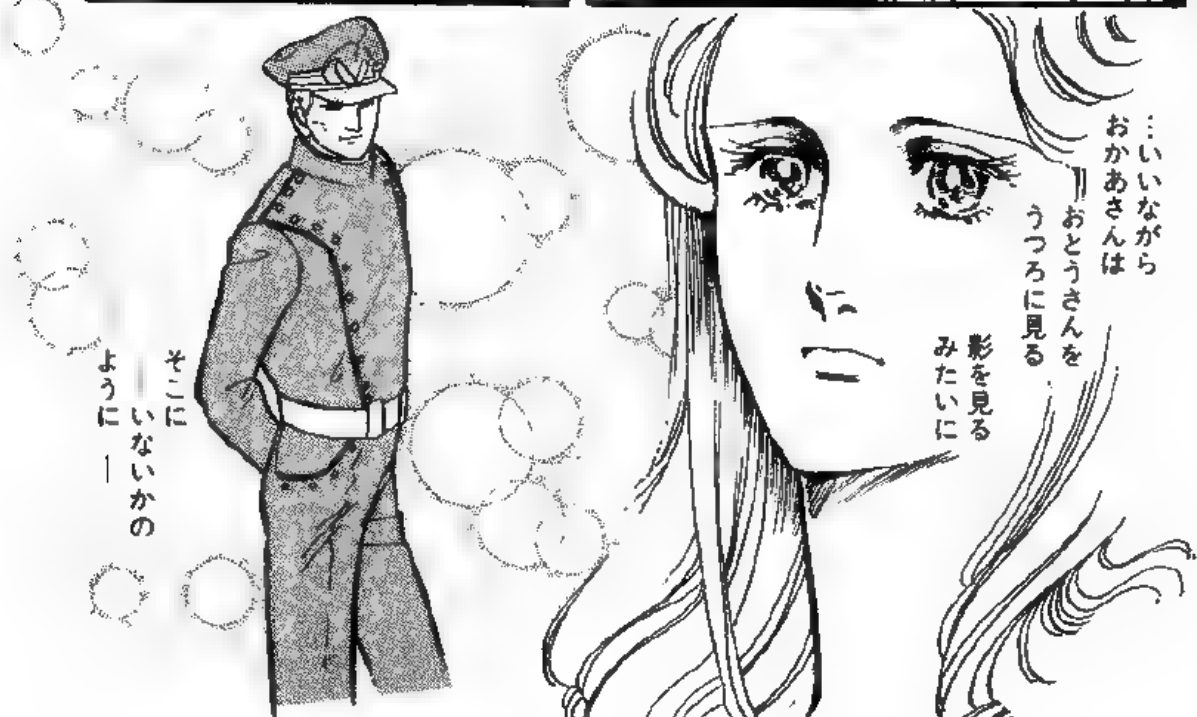
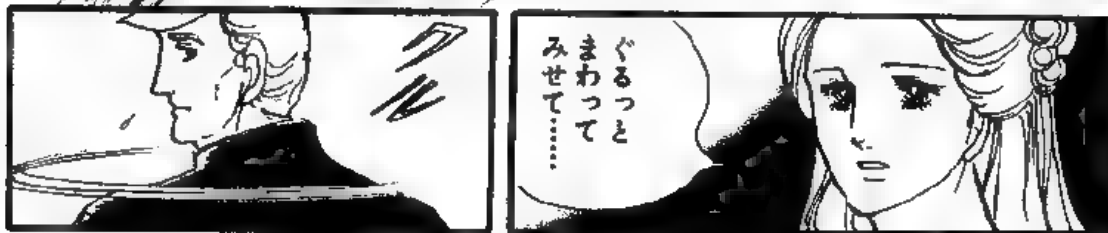
いちども
制服姿
見たこと
ないんだ
もの

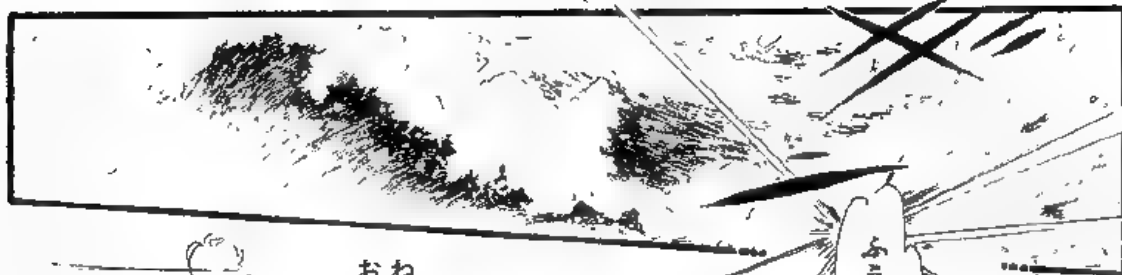


でもその夜
またやって
しまった

ねえ
おとうさん
お願いが
あるんだけど

なんだいダゲ





ねえ
おかあさんも

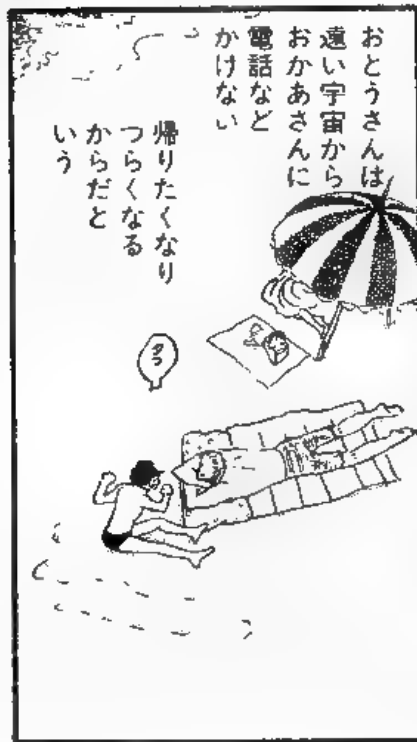
いい日だ

翌日
翌々日
ぼくらは
海に出かける
おとうさんと



…うん
いいな…

ああ
太陽
土
潮風



おとうさんは
遠い宇宙から
おかあさんに
電話など
かけない

帰りたくなり
つらくなる
からだとい



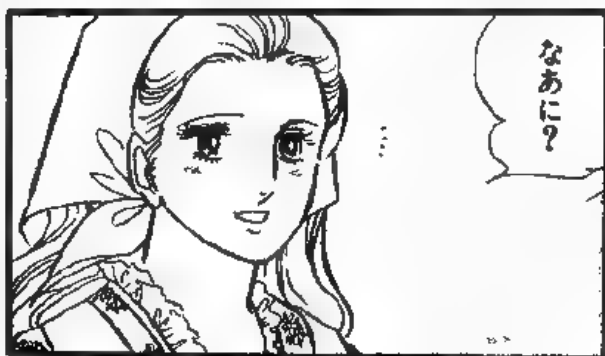
船に乗ってると
なつかしくなるで
しょう
おとうさん
草や大地やぼくや
おかあさんの手料理

おまえ長く
泳げるように
なつたなダグ

そうだよ！ それに
高とびだつてクラスーだよ！



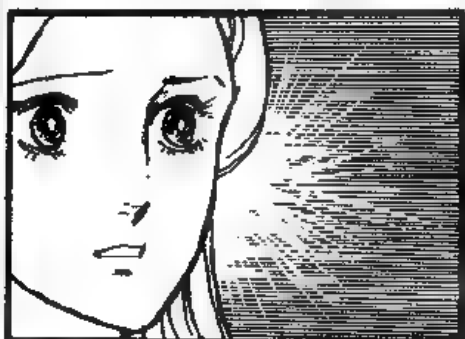
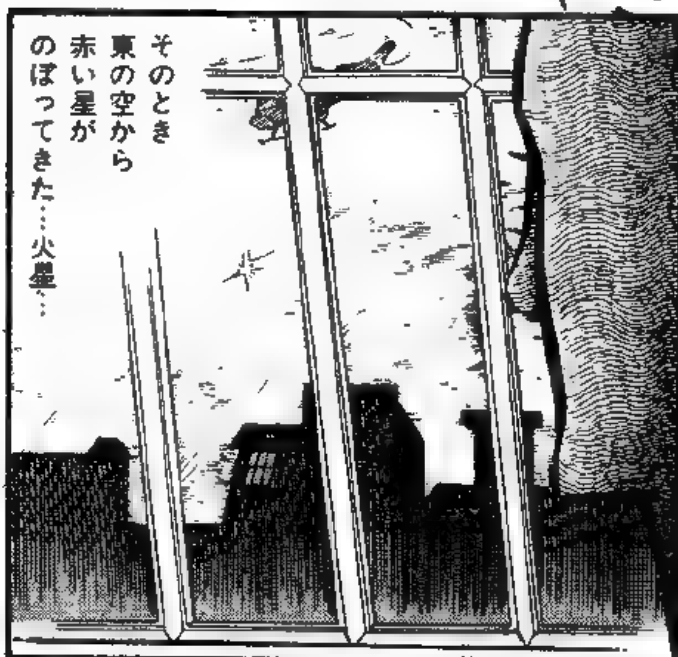




さあ
いまいうぞ!
にとと宇宙に
でかけないって
家にずっと
いるよって

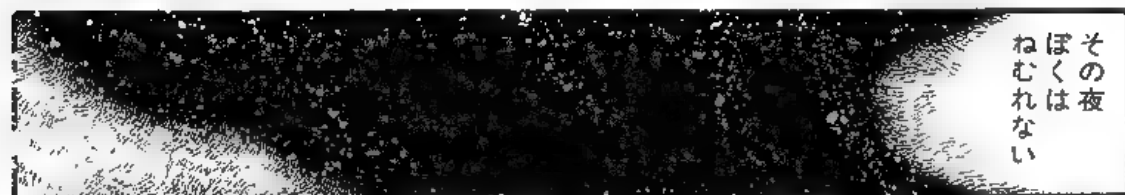


もうこれで
おとうさんは
おりから
でられない!





おかあ……さん



宇宙では
人が死ぬのに
どれぐらい
ちがう死に方が
あるの……？

さあ……
数えきれない
ほどだよ

隕石がぶつかる
空気が船から
もれる

彗星に道づれに
される

震盪症
狭窄症
破裂症

遠心力
加速度の
過不足

太陽
月
アステロイズ
プラネトイズ
放射能……

埋葬するの？

死体は
見つからない
ことが多い

10億マイルも
遠くへ飛んでいつて
しまう

通称
動く墓場だ

永遠に
宇宙を
さまよう
んだ

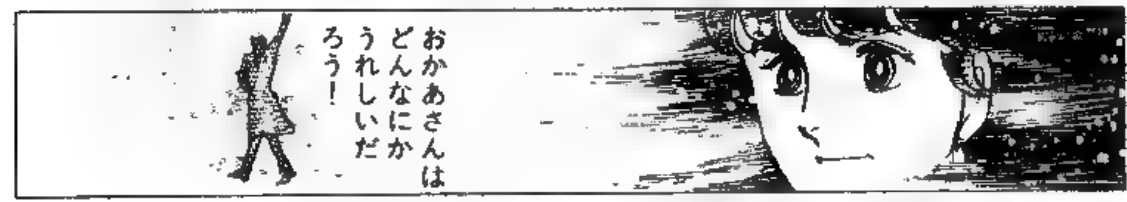
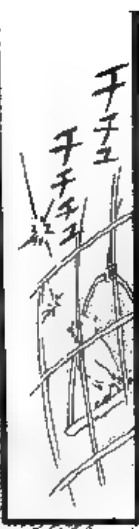
宇宙では
……

即座だ

ぐずぐずしない
あつというまに

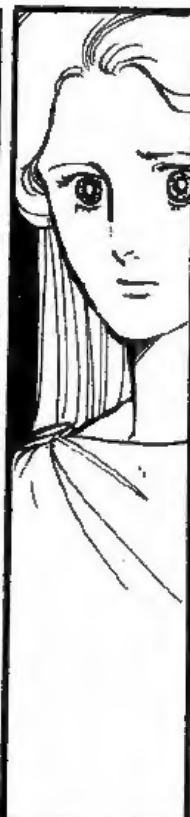
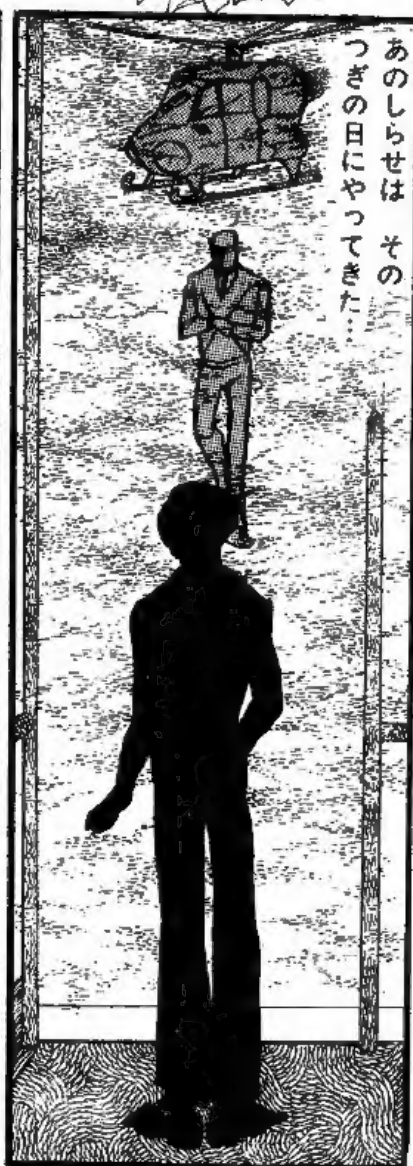
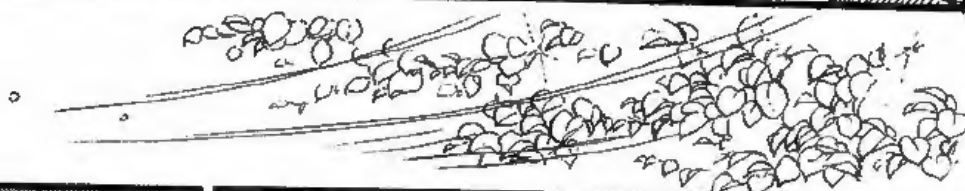
死んでいる

即死だ
それっきり
だ……









おかあさんは
泣かなかった！

おとうさんの命を
うばったのは

それは

火星でも
金星でも

土星でも
なかった

星を見て だから
おとうさんのことを
思い出す必要はない

おとうさんの宇宙船は
太陽の中に落ちたのだ……

長いあいだ
おかあさんは
昼間ずっと
ねていて
外に
でなかった

ぼくらは
真夜中におきて
朝食を食べ

午前3時に
昼食を食べ

午前
6時に
とった

ふたりで
オイルナイトを
見にでかけ

あけ方
カーテンを
びったりと引いて
ねた



長いあいだ
ぼくらが
外へ散歩に
でかけるのは

ただ 雨降りの
太陽のでていない日だけだった

